

令和3年度研究テーマ

『地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働』

～地域の未来を担う自己肯定感・自己有用感の
高い若年層の育成～

1. 研究テーマ
2. サブテーマ
3. しりべしジュニアリーダーワークショップ
の経緯と事前研修
4. それぞれのまちでの事業
5. しりべしジュニアリーダーワークショップ
事後研修

R01～R04研究テーマ

地域づくりの担い手育成に向けた 行政と住民の連携・協働

地域づくりの担い
手育成は行政だけ
ではできない！



行政と住民との連携・協働

社会教育行政の役割は 地域の活動に関心がない住民の関心を高め、地域づくりの担い手へ導くこと。

持続的に**地域づくりの担い手**を
育成できる仕組みの構築

サブテーマ 地域の未来を担う自己肯定感・

自己有用感の高い若年層の育成

不登校児童生徒数の増加 令和2年度196,127人（14,855人増加）

私は自分自身に満足している



自己
肯定感
低下

地域住民を活用し、若年層の自己有用感を高める

参考：地域学校協働活動本部

児童生徒の自己肯定感、自己有用感を高めるために**地域学校協働活動本部**、**学校運営協議会**が効果的に連携する仕組みについて追究する。

地域学校協働活動

放課後
子ども教室

地域未来塾

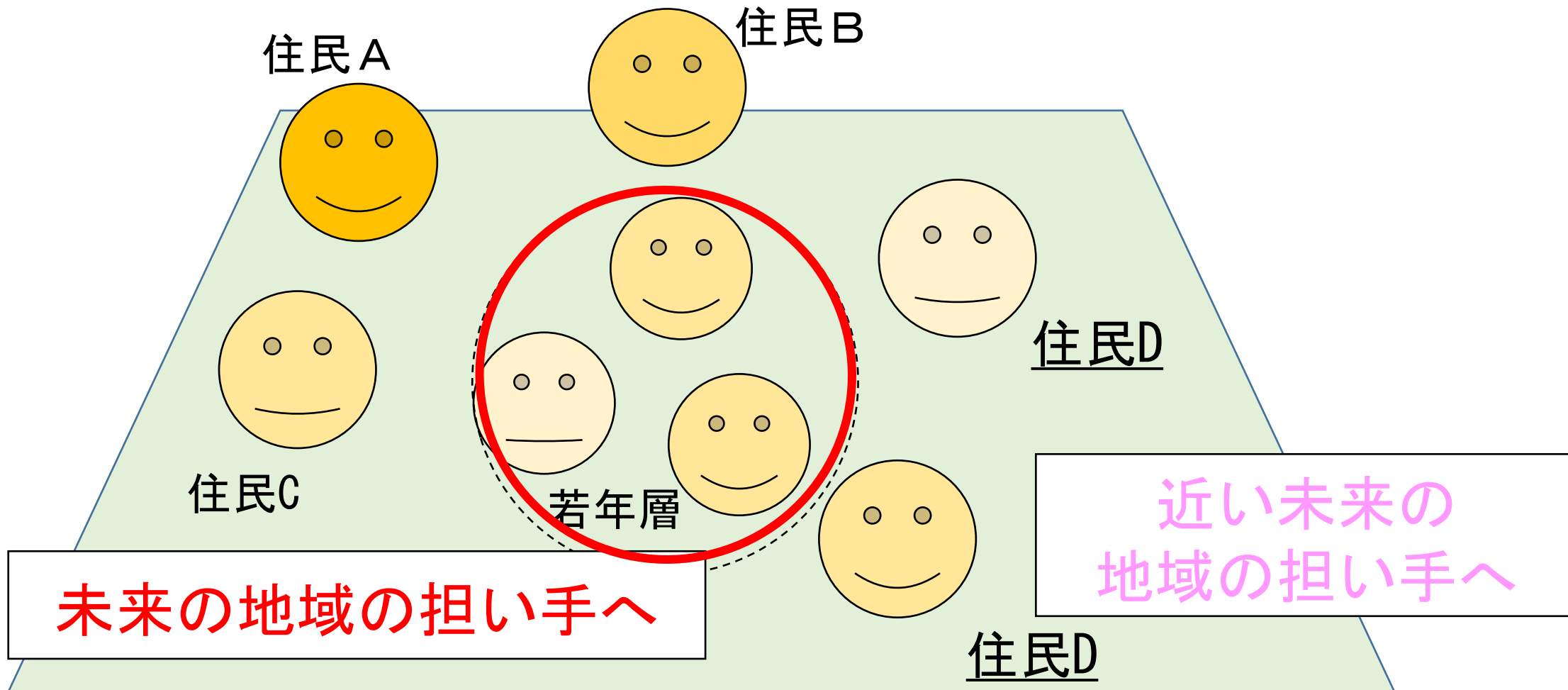
学びによるまちづくり・地域解決型学習・協働学習

家庭教育
支援活動

学校に対する多様な協力活動

地域の行事、イベント、お祭り、ボランティア活動への参画

地域の担い手育成のイメージ



しりべしジュニアリーダーワークショップの概要

目的

管内の中高生が地域課題の解決に向けた実践的な学習活動を行い、次世代の地域リーダーとしての資質向上を図るとともに、地域への愛着を育む。

①事前学習（R3はオンライン開催）

- ・ジュニアリーダーとは？地域活動とは？を学ぶ
外部講師（R3はNPO法人ezorock草野代表理事ほか）

②事業参画（7月から11月）

- ・それぞれの市町村で実施している事業へ参画してもらう。

③事後研修

- ・参画した事業の様子を発表しあい、参加者同士で話し合うことにより学習を深める。



ジュニアリーダーワークショップ（事前研修）の様子

○期日 令和3年7月28日（水）
午後1時30分より

○場所 オンライン（一部合同会場）

○主な内容

講話① 「地域活動ってなに？」

講師 NPO法人ezorock代表理事 草野 竹史 他

講話② 「リーダーとは？」

講師 後志教育局社会教育指導班主査 田中 尚史 氏

○参加者 中学生12名 高校生8名



研修参加前後の感想

【 研修前 】

- ・ 自分から行動して何かをしようとか、進んでやろうとかはあまり思えていなかった。
- ・ とてもわからないことがたくさんあって不安な気持ちでした。大変そうだなとか、とても難しそうなきががしました。緊張していた所もあり、とても嫌がっていました。

【 研修後 】

- ・ リーダー的存在となる人は、目立っている人しかないと考えていたけど、誰にでもなれるということやそもそもリーダーは必要ということが分かった。
- ・ この会議にはいろいろな中学校や高校の人達が参加していて、自分たち以外の人がいるのが驚きました。今日学んだことをこれからの生活や劇に取り入れていきたいです。
- ・ 今回の話を聞いて、自分の意見を発言したり人の意見を理解し共感して支えてあげられる人になりたいなと思いました。

研修参加後のアンケートの実施

<質問内容>

『自分には良いところがある』（自己肯定感）

『人の役に立つ人間になりたい』（自己有用感）

『失敗を恐れなくて挑戦している』（挑戦力）

『自分の思いを言葉で表すことができる』（自己表現）

『地域や社会をよくするために何をすべきか考える』

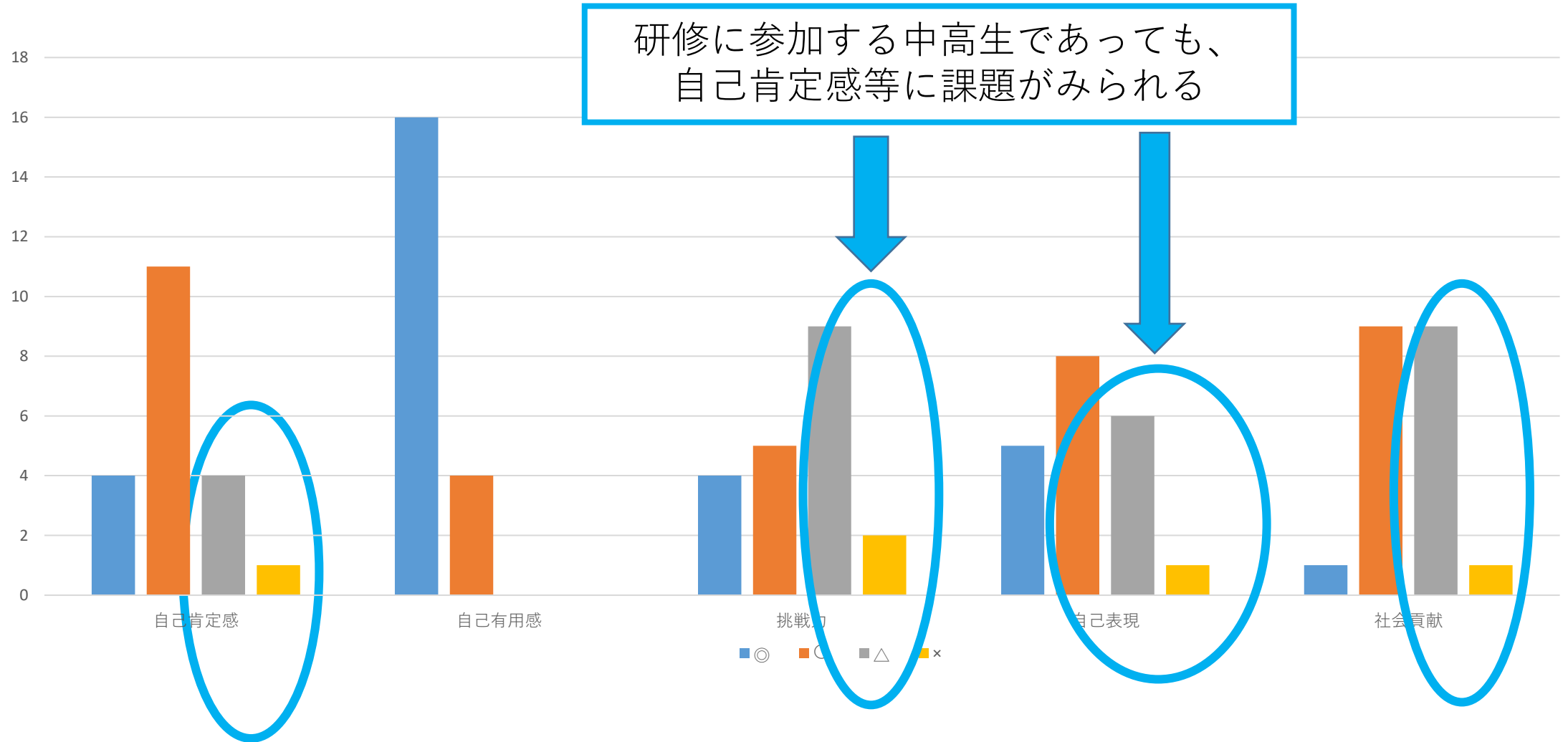
（まちづくりへの参加）

・ <回答は4択>

◎当てはまる ○ややあてはまる △あまり当てはまらない

×当てはまらない

アンケートの結果



それぞれのまちでの事業

- 小樽市 : 『樽っ子学校サポート事業』
- 島牧村 : 島牧ジュニアリーダーワークショップ
- 寿都町 : 令和3年度自然体験キャンプ
- 蘭越町 : 蘭越町ジュニアリーダーワークショップ
- 留寿都村 : るすつジュニアリーダーワークショップ
- 喜茂別町 : きもべつジュニアリーダーワークショップ
- 倶知安町 : 読書プロモーション計画
- 共和町 : 世代間交流会への企画・参加
- 古平町 : 少年少女わんぱく王国への参画
- 赤井川村 : 弱点克服学習会
- 共和町 : 世代間交流会への参画
- 余市町 : 余市紅志高校演劇部の紹介
- 黒松内町 : 留学生ふれあい交流 IN 黒松内

【事業概要】

小学生から高齢者までを対象に夏、秋、冬の3回実施している。昔遊びや、もの作り、レクリエーションを行い世代間の交流を図っている。また、近年はALTにも参加してもらい、異文化交流の場としての役割も果たしている。

【事業の補足説明】

- ・ 1回目打合せ 10月 4日（月）事前説明会
- ・ 2回目打合せ 10月18日（月）事前練習
- ・ 世代間交流会 10月23日（土）本番
- ・ 中学生ボランティアはレクリエーションの進行を担当。

【事業の成果と課題】

- ・ 当日はレクじゃない場面でも積極的に子どもたちをサポート！
- ・ レクではどうすれば皆が楽しんでくれるかを考え、進行！
- ・ 中学生の頑張っている姿を見て、参加者も盛り上げようと交流会全体の雰囲気UP！



結果として…

- ・ 世代を超えて一体感が生まれた。
- ・ ボランティアとして参加してくれた中学生が、次回の世代間交流会に周りの友達も巻き込んで、参加の申込をしてくれた。



『島牧ジュニアリーダーワークショップ』

【事業の概要】

中高生ボランティアが村の事業に参加し、事業の企画運営を行う。

【事業の補足説明】

- ・夏休みの児童クラブに参加し、勉強を見たりレクリエーションを考えたりする
- ・通常は指導員2名体制で活動しているが、夏休み中は指導員1名しか対応できず、ボランティアを活用。

【事業の成果】

- ・参加した児童は普段と違う活動ができたことで喜んでいました。
- ・生徒は実施前は不安等を抱えていたが、活動を終えて達成感を得られた。
- ・事業後ほかの事業でボランティアの募集をした際、積極的に参加するようになった。

【課題】

- ・より多くの事業で中高生ボランティアを活用できるように
- ・募集から事業実施までが短く、参加者同士で内容を協議する時間がとれなかった。



【事業の概要】 公民館図書室の環境整備

【事業の補足説明】 高校生2名が参加。図書室が分かりにくい場所にあるため、初めて来館した人が図書室の場所が把握できるよう案内板を作成。

【事業の成果と課題】

- ・ 課題に取り組み、考える意思が持てるようになった。
- ・ 教育委員会公式Instagram、生涯学習情報誌で周知したことにより、広く本事業を知ってもらえた。
- ・ 部活動をしている生徒や寮生が多いことから、長期休暇や土日での活動が難しい。



留寿都村教育委員会 公式Instagram



【事業の概要】喜茂別中学生対象

- 参画者 喜茂別中学校生徒 4名
- 事業名 「スマイル塾小学生夏期学習会」(冬期休業においても実施予定)
 - 期 日 令和3年8月2日～4日 喜茂別小学校
 - 内 容 小学生の夏期長期休業に合わせた学習会の講師
- 事業名 「秋の読書週間企画展」
 - 期 日 令和3年10月27日～11月30日(展示準備として2日間作業を実施)
 - 内 容 企画展の選書・展示(POP等)



学習会の様子



企画展準備の様子

喜茂別町のジュニアリーダーとして4名が上記事業に参画した。
学習会は、これまで、教育委員会職員で対応していた事業に参画し、講師として小学4～6年生に対して宿題などの解き方などを指導した。
読書週間では、毎毎年開催している秋の読書週間に合わせ、自分たちで読んでもらいたい本のテーマを決め、選書や展示方法を工夫し、町民から好評を得ている。

【事業の成果と課題】

参画した生徒は、非常に積極的に本事業に取り組んでおり、学習会では、小学生がわかりやすいように説明したり、中学校の様子を離したり、コミュニケーションを積極的にとり、企画展では、自分たちで本のテーマ、PR用のPOPの作成を行い、アイデアを出し合いながら取り組んでいた。展示図書は、多くの町民に貸し出され、図書室の活性化につながっている。

学校に事業の様子を伝えたところ、生徒がこの取り組みに積極的に参加しているということに感心していたことから、生徒の違う側面を垣間見る機会となったようだ。

課題としては、参画した生徒学校の授業・部活動との兼ね合いにより、打ち合わせや作業の時間調整に苦慮した。



～創作活動～



～スポーツ活動～



～見学活動～



1回目打ち合わせ
8月3日(火)



2回目打ち合わせ
8月11日(水)



ミニ運動会&デイキャンプ
当日8月11日(水)

中学生リーダーが事務局案に対し様々な提案！

- ・ こういうドッジボールがあり、とても盛り上がったことがある
- ・ BGMを流してはどうか
- ・ プールを使うレクは止めたほうがよい

児童20名
が参加！

中学生リーダーが進んで円滑に進むよう事務局を補佐！

- ・ ボールが当たり泣いてしまった子を介抱
- ・ 方法が危険だということをアドバイス
- ・ 進行の言葉を子どもたちに行き渡らせる



リーダーとしての素質が開花！？

令和3年度自然体験キャンプ

スケジュール

参加者募集 7月中旬～下旬

事前検討会議 7月26日（月）

キャンプ 8月5日（木）6（金）

【事業の概要】

小学校4～6年生を対象にした自然体験キャンプにボランティアとして、中学生2名、高校生2名が参加をした。

【事業の補足説明】

中高生ボランティアには、事前検討会議に参加をしてもらい、当日の活動内容等を検討した。

【事業の成果】

キャンプの当日は、グループのリーダーとして、小学生を牽引していこうとする姿が随所で見られ、キャンプの運営に大きく貢献していた。



読書プロモーション計画

図書室の仕事を体験しながら小中学生にお薦めの図書を選び、自分たちのオリジナルポスターを作って小中学生の読書活動の推進と町図書室の利用促進を目指す事業。活動期間は主に夏休みを利用し、活動日程やポスターデザインはすべて参加者が決める。

子どもたちへ勧める図書は「大人の目線」ではなく、本を読む「子どもの目線」で選ぶことも必要。今回は小中学生への読書活動推進のため、参加者をあえて中学生に限定した。

成果

- ポスター展示による子どもや利用者への読書推進効果
- 参加生徒の主体性・協調性をの育成

課題

- 子どもたちにとって一番身近な学校図書室も視野に入れた活動を行いたい。



余市紅志高校演劇部の紹介

【事業の概要】余市紅志高校演劇部の部員5名が演劇「緋の衣」を作り上げる上でのセット作りの風景、音響作業風景、練習風景等を余市町教育委員会社会教育課のSNSにより発信することで、余市町の歴史のひとつコマであるリンゴ「緋の衣」を広く周知することを目的として活動。

【事業の補足説明】10月開催の高文連後志支部大会で優勝、全道高等学校演劇発表大会にも出場し、見事、優秀賞と創作脚本賞を受賞した。

【事業の成果と課題】高文連後志支部大会、全道高等学校演劇発表会に出場することにより、余市町の歴史のひとつコマであるリンゴ「緋の衣」を広く周知することに貢献した。今後の課題としては、より多くの生徒が参加できるような事業実施が必要と考える。



【事業の概要】

- ・ 村内の小学生を対象に、長期休業期間における家庭での学習の定着を図り、個々の弱点克服につなげるなど、学力向上を目的としている。

【事業の補足説明】

- ・ 実施日程 夏休み・冬休みの3日間で実施
9時30分～11時30分まで
- ・ 村内学校職員や地域住民に講師を依頼し、中学生や高校生に講師のサポートをしてもらう。
- ・ 学年ごとにグループ分けをし、1～2名のボランティアが担当することで、丁寧な指導を行うことができる。

【事業の成果と課題】

- ・ 児童は学校の課題や学習会用の問題集に真剣に取り組んでいて、学習に対する意欲の向上が見られ、のべ82名が参加した。



蘭越ジュニアリーダーワークショップ

【事業の概要】

- 参加者 蘭越高校地域デザイン同好会 3名
- 期 日 令和3年9月～12月
- 内 容 同好会の研究内容を町広報誌に執筆する
- テーマ 蘭越町の活性化

【事業の補足説明】

本事業は蘭越高等学校地域デザイン同好会の生徒が「蘭越町の活性化」を研究テーマにし町内にある廃校になった学校の活用方法について調査・研究をおこないました。実際に町内の廃校を活用している民間企業「湯ノ里デスク」に取材を実施しました。取材内容は、廃校を実際に活用するメリットや活用することになった経緯などを質問しました。

取材・研究した後に、調査した内容をまとめ、町広報誌への執筆作業に取り掛かりました。広報誌へは掲載する内容や紙面のレイアウトを自分たちで考え作成しました。町広報誌の12月号に掲載されております。

【成果】

参加した生徒は自発的に活動していた。また、作業を分担したりなど参加者同士が効率よく取り組んでおり、協調性を養うことができた。

【課題】

同好会の活動の1つとして今回実施したが、他の活動と時期的に被ってしまっていたので次年度以降は調整が必要になる。



完成した町広報誌

【事業概要】

黒松内ぶなの森自然学校が受入団体として実施する、北海道国際交流・協力総合センター主催事業「留学生ふれあい交流inしりべし」の一環で、黒松内町民とふれあう内容を取り入れたいとのことから、町内の中学生を企画運営者、参加者として募集。その活動をジュニアリーダー育成事業として設定。

中学生が考案した、英語での自己紹介や琴の演奏、もちつき体験などを中学生8名、町内女性会、留学生22名と実施。

【活動の様子】

世界の文化を知るチャンス、学んだ英語を使うチャンス、世界に友達を増やすチャンス、黒松内のことを世界に紹介するチャンス、と称して実施したが、「自分たちで計画を立てる（課題や目標の設定）」⇨「準備する（解決に向けて）」⇨「実施する」⇨「ふりかえり次回へ（反省）」の流れを作ることで、中学生の自信、経験、知識を蓄え、次世代の地域の担い手（リーダー）育成も狙いとした。

①10月11日（月） 交流プランを考えよう

当日のプランを作成。中学生からはやる気を感じられ、交流を楽しみにしている様子。企画案ではブナ材を使った工作、演舞、琴の体験、パンやお菓子作りといった意見が出され、黒松内の良さや、日本の文化を伝えたいまた、体験的な活動とおし交流を深めたい気持ちが窺えた。メンバーの中に琴を習っている者がおり披露することに。また、町内でもち米が作られていることや、日本の文化であり体験したことがないのではとのことから、もちつきをすることで決定。

②10月17日（日） 留学生ふれあい交流黒松内

当日は多くの留学生を前に緊張した様子、時間が立つにつれ緊張も解け笑顔に。学校や英語教室で学んだ自分のできる範囲の英語を使い交流している様子があった。

【成果と課題】

あらためてふるさとを知る機会となった。女性会や国際交流支援員など町内の人材を交えた活動ができた。アンケートでは多くの中学生が貴重な体験ができた、自分の学んでいる英語を使えた、もっと話したい勉強したい等の声があった。また、来年は高校生であるがまたこのような活動をしたいたいの声もあった。少子高齢化、人口の減少が続く本町では次世代の担い手を育成することは今後の町を支えていくために大変重要であり、今回の活動のような中高生が地域の人と一緒に身近なことに取り組んでいく事業づくりが必要である。



【 事業の概要 】

長期休業中の小中学校が行う学習会に高校生が参加し学習支援等を行う。

【 課題 】

学習会日程と高校生の講習日程が重なり、サポーターの派遣が足りない。 小7校 中6校



【 エ 夫 】

別な事業で協力いただいていた高校生ボランティアへ学習支援を要請 延べサポーター107名

<反応>

・生徒からも「集中して取り組めた」「また参加したい」という声が多く、良い学習の場となった。



研修参加後のアンケートの実施

< 質問内容 >

『自分には良いところがある』 (自己肯定感)

『人の役に立つ人間になりたい』 (自己有用感)

『失敗を恐れなくて挑戦している』 (挑戦力)

『自分の思いを言葉で表すことができる』 (自己表現)

『地域や社会をよくするために何をすべきか考える』

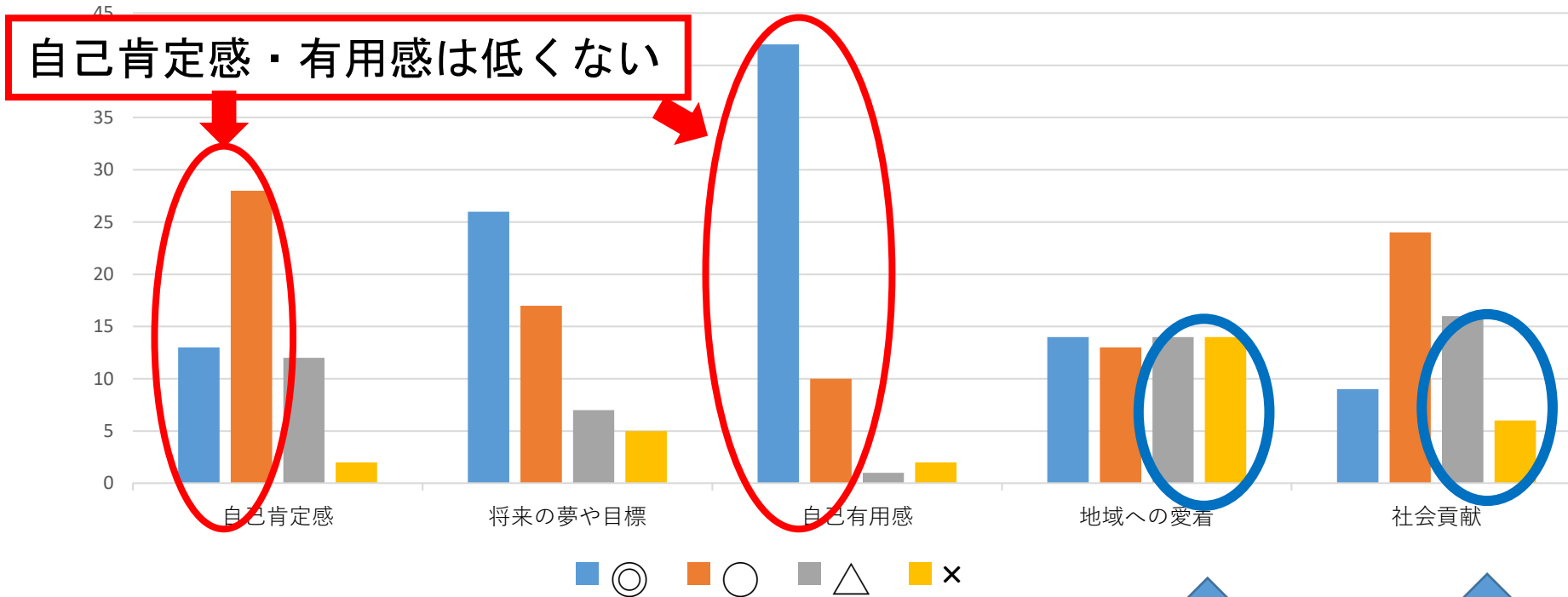
(まちづくりへの参加)

・ < 回答は 4 択 >

◎当てはまる ○ややあてはまる △あまり当てはまらない

×当てはまらない

『樽っ子サポーターJr.』へのアンケートの実施



自己肯定感・有用感は低くない

まちの行事への参加や地域・社会をよくしようとする意識は高くない

ジュニアリーダーワークショップ（事後研修）

○期日 令和4年1月21日（金）
午後16時

○場所 オンライン（一部合同会場）

○主な内容（予定）

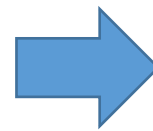
- ・オリエンテーション
- ・参加者ワークシート作成

・実践の発表

- ・参加者振り返り、アンケート記入

○参加者

後志管内中高生、社会教育担当者



中高生がお互いの活動を知り、
共感し、認め合う

自己肯定感の更なる高まり

ジュニアリーダーワークショップ (社会教育担当者アンケート)

目 的

管内の社会教育担当者が連携して事業を実施することにより広域的・効果的な学びの場の提供を図る。

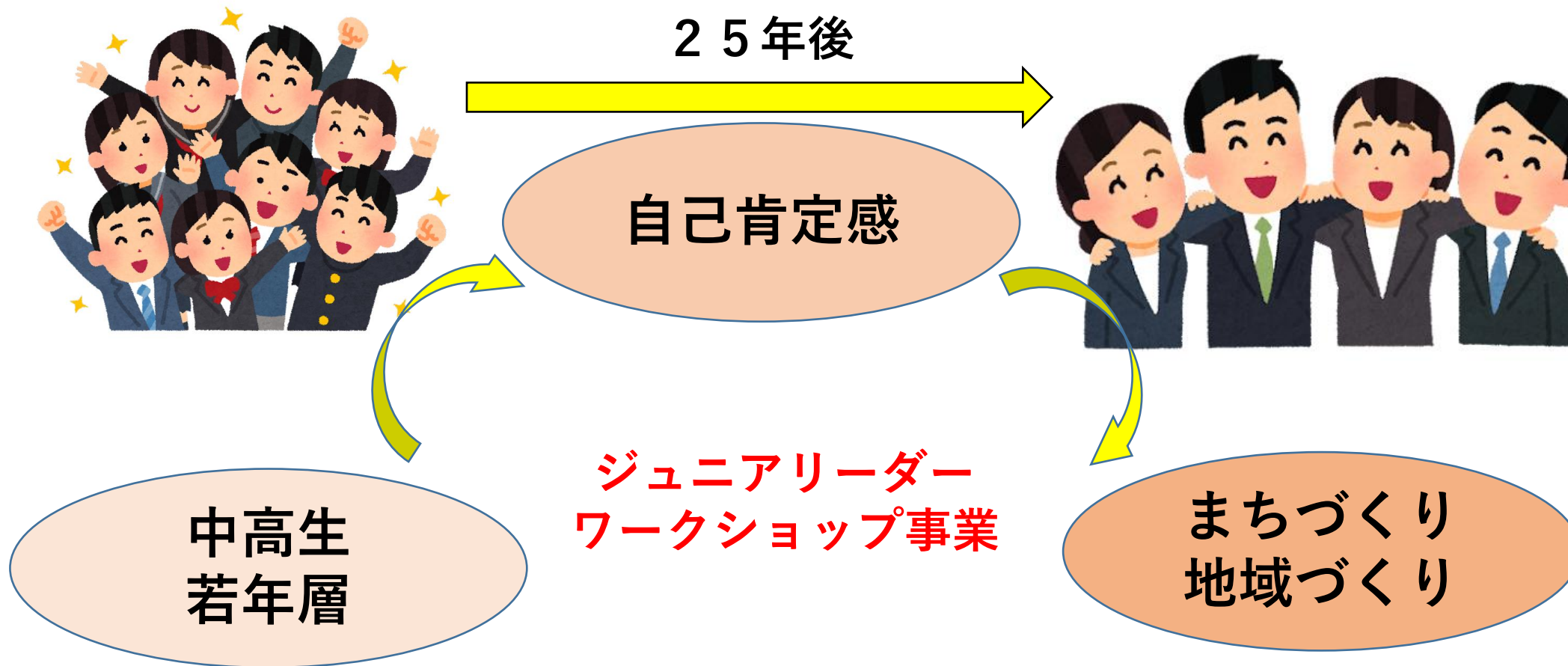
○質問内容

- ・まちでの事業の位置づけ⇒総合計画、教育計画 等
- ・まちで若年層を活用する事業の有無
- ・若年層への周知、事業実施の工夫 等
- ・若年層の変容（担当者から見て）
- ・まちでの広報のあり方

北海道の将来人口

2020年 521.7万人 → 2045年 400.5万人 (約25%) 減

出典 国土交通省



それぞれのまちの社会教育行政が継続して取り組む必要性

ご清聴ありがとうございました。

